

ゴウカライズ

2024.2.25

東京工業 大学

数学

解答速報



I

xy 平面上の曲線 $y = \frac{1}{2}x^2$ に、点 $(a, \frac{1}{2}a^2)$ ($a > 0$) で接する円のうち、 y 軸の正の部分にも接するものを S_a とおく。 a が正の実数を動くときの S_a の中心の軌跡を C 、とくに S_1 の中心を P とする。

(1) 点 P の座標を求めよ。

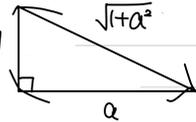
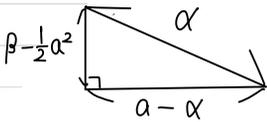
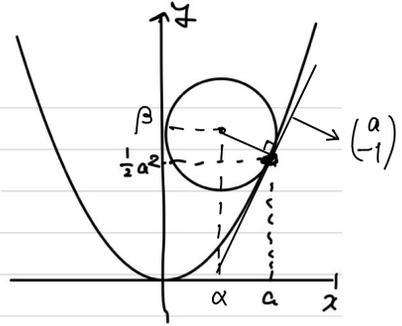
(2) 点 P における曲線 C の接線の傾きを求めよ。

東正

□ 円の中心を (α, β) とする。 ($\alpha, \beta > 0$)

y 軸に接するから半径 $\alpha = \beta$ 、

(1) $(x - \alpha)^2 + (y - \beta)^2 = \alpha^2$ が円の方程式である。



以上2つの三角形は相似なので、 $(a - \alpha)\sqrt{1 + \alpha^2} = a\alpha$

$$a\sqrt{1 + \alpha^2} = (a + \sqrt{1 + \alpha^2})\alpha$$

$$\alpha = a(1 + \alpha^2) - a^2\sqrt{1 + \alpha^2}$$

$$\begin{aligned} \text{また、} (\beta - \frac{1}{2}a^2)a = a - \alpha \text{ より、} \beta &= 1 - (1 + \alpha^2) + a\sqrt{1 + \alpha^2} + \frac{1}{2}a^2 \\ &= a\sqrt{1 + \alpha^2} - \frac{1}{2}a^2 \end{aligned}$$

特に、 P については $a = 1$ のときで、 $P(2 - \sqrt{2}, \sqrt{2} - \frac{1}{2})$ #

(2) $\frac{d\beta}{d\alpha} = \frac{(\frac{d\beta}{da})}{(\frac{d\alpha}{da})}$ であって、

$$\frac{d\beta}{d\alpha} = \sqrt{1 + \alpha^2} + a \frac{a}{\sqrt{1 + \alpha^2}} - a \text{ より、} \frac{d\beta}{d\alpha} \Big|_{a=1} = \frac{3\sqrt{2} - 2}{2}$$

$$\frac{d\alpha}{d\alpha} = (1 + \alpha^2) + 2\alpha^2 - 2a\sqrt{1 + \alpha^2} - a^2 \cdot \frac{a}{\sqrt{1 + \alpha^2}} \text{ より、} \frac{d\alpha}{d\alpha} \Big|_{a=1} = \frac{8 - 5\sqrt{2}}{2}$$

$$\therefore \frac{d\beta}{d\alpha} \Big|_{a=1} = \frac{3\sqrt{2} - 2}{8 - 5\sqrt{2}} = \underline{1 + \sqrt{2}} \text{ #}$$

II

実数全体を定義域にもつ微分可能な関数 $f(t)$, $g(t)$ が次の 6 つの条件を満たしているとする。

$$f'(t) = -f(t)g(t), \quad g'(t) = \{f(t)\}^2,$$

$$f(t) > 0, \quad |g(t)| < 1, \quad f(0) = 1, \quad g(0) = 0$$

このとき

$$p(t) = \{f(t)\}^2 + \{g(t)\}^2, \quad q(t) = \log \frac{1+g(t)}{1-g(t)}$$

とおく。

- (1) $p'(t)$ を求めよ。
- (2) $q'(t)$ は定数関数であることを示せ。
- (3) $\lim_{t \rightarrow \infty} g(t)$ を求めよ。
- (4) $f(T) = g(T)$ となる正の実数 T に対して、媒介変数表示された平面曲線 $(x, y) = (f(t), g(t))$ ($0 \leq t \leq T$) の長さを求めよ。

②

$$\begin{aligned} (1) \quad p'(t) &= 2f(t) \cdot f'(t) + 2g(t) \cdot g'(t) \\ &= 2f(t) \cdot (-f(t)g(t)) + 2g(t) \cdot \{f(t)\}^2 \\ &= 0 \quad \text{なお, } p(0) = 1 \text{ なる } p'(t) \text{ は常に } 0 \text{ である.} \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned} q'(t) &= \frac{f'(t)(1-g(t)) + g'(t)(1+g(t))}{(1-g(t))^2} \\ &= \frac{-f(t)g(t) + \{f(t)\}^2(1+g(t))}{(1-g(t))^2} \\ &= \frac{2\{f(t)\}^2}{(1-g(t))^2} \end{aligned}$$

$$= \frac{2\{1-g(t)\}}{(1-g(t))^2} \quad (\because g'(t) = \{f(t)\}^2 \text{ かつ } p(t) = 1)$$

$$= 2$$

$\therefore q'(t)$ は定数関数である \blacksquare

(3) $f(0) = 0$ であるから、(2)より、 $f(t)$ はある定数
 k を用いて $f(t) = kt$ と表す。

また、 $f'(0) = 2$ より、 $k = 2$ である。

つまり、 $\lim_{t \rightarrow \infty} f(t) = \infty$ である。 $\therefore \lim_{t \rightarrow \infty} f(t) = 1$.

$$(4) \int_0^T \sqrt{(f'(t))^2 + (g'(t))^2} dt = \int_0^T f(t) dt.$$

いま、

$$2t = \log \frac{1+f(t)}{1-f(t)} \text{ より、 } f(t) = \frac{e^{2t} - 1}{e^{2t} + 1}.$$

また、

$$2 = \frac{2f'(t)}{(1-f(t))^2} \text{ より、 } f'(t) = \frac{4e^{2t}}{(e^{2t} + 1)^2}.$$

$$\therefore f(t) = \sqrt{f'(t)} = \frac{2e^t}{e^{2t} + 1} \quad (\because f(t) > 0).$$

$$\text{また、 } f(T) = g(T) \text{ であるから } f(T) = g(T) = \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ である。}$$

$$T = \log(1 + \sqrt{2}).$$

$$\therefore \int_0^{\log(1+\sqrt{2})} \frac{2e^t}{e^{2t} + 1} dt = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3\pi}{8}} 2 d\theta \quad (e^t = \tan \theta)$$

$$\text{また、 } \tan \frac{3\pi}{8} = 1 + \sqrt{2} \text{ を用いた。}$$

$$\text{よって、求める値は } \frac{\pi}{4}$$

大問 3

xy 平面上に点 $A(a, 0)$, $B(0, b)$, $C(-a, 0)$ (ただし $0 < a < b$) をとる. 点 A, B を通る直線を ℓ とし, 点 C を通り線分 BC に垂直な直線を k とする. さらに, 点 A を通り y 軸に平行な直線と直線 k との交点を C_1 とし, 点 C_1 を通り x 軸に平行な直線と直線 ℓ との交点を A_1 とする. 以下, $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して, 点 A_n を通り y 軸に平行な直線と直線 k との交点を C_{n+1} , 点 C_{n+1} を通り x 軸に平行な直線と直線 ℓ との交点を A_{n+1} とする.

(1) 点 A_n, C_n の座標を求めよ.

直線 k, ℓ の方程式はそれぞれ $y = -\frac{a}{b}x - \frac{a^2}{b}$, $x = -\frac{a}{b}y + a$ である. これより, $A_n(x_n, y_n)$ であるとき, $C_{n+1}(x_n, -\frac{a}{b}x_n - \frac{a^2}{b})$, $A_{n+1}(\frac{a^2}{b^2}x_n + \frac{a^3}{b^2} + a, -\frac{a}{b}x_n - \frac{a^2}{b})$ となることから漸化式

$$x_{n+1} = \frac{a^2}{b^2}x_n + \frac{a^3}{b^2} + a$$

が立てられる. $C_1(a, -\frac{2a^2}{b})$, $A_1(\frac{2a^3}{b^2} + a, \frac{2a^2}{b})$ より $x_1 = \frac{2a^3}{b^2} + a$ である. これと漸化式から,

$$x_n = -\left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^3}{b^2 - a^2} + \frac{a^3 + ab^2}{b^2 - a^2}$$

と求まる. A_n は ℓ 上にあるので

$$y_n = b - \frac{b}{a}x_n = \left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^2b}{b^2 - a^2} - \frac{2a^2b}{b^2 - a^2}$$

である.

したがって, $A_n\left(-\left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^3}{b^2 - a^2} + \frac{a^3 + ab^2}{b^2 - a^2}, \left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^2b}{b^2 - a^2} - \frac{2a^2b}{b^2 - a^2}\right)$ である.

(2) $\triangle CBA_n$ の面積 S_n を求めよ.

$\frac{BA_n}{BA} = \frac{x_n}{a}$ であることを用いる. $\triangle CBA$ の面積を S とおくと $S = ab$ であり,

$$S_n = \frac{BA_n}{BA}S = bx_n = b\left(-\left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^3}{b^2 - a^2} + \frac{a^3 + ab^2}{b^2 - a^2}\right)$$

である.

(3) $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{BA_n}{BC}$ を求めよ.

$\frac{BA_n}{BC} = \frac{BA_n}{BA} = \frac{x_n}{a}$ である. $a < b$ より $\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n = 0$ であることを用いると,

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{BA_n}{BC} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{a} \left(-\left(\frac{a^2}{b^2}\right)^n \frac{2a^3}{b^2 - a^2} + \frac{a^3 + ab^2}{b^2 - a^2}\right) \\ &= \frac{1}{a} \frac{a^3 + ab^2}{b^2 - a^2} \\ &= \frac{a^2 + b^2}{b^2 - a^2} \end{aligned}$$

と計算できる.

4 (60点)

n を正の整数とし、 C_1, \dots, C_n を n 枚の硬貨とする。各 $k = 1, \dots, n$ に対し、硬貨 C_k を投げて表が出る確率を p_k 、裏が出る確率を $1 - p_k$ とする。この n 枚の硬貨を同時に投げ、表が出た硬貨の枚数が奇数であれば成功、というゲームを考える。

(1) $p_k = \frac{1}{3}$ ($k = 1, \dots, n$) のとき、このゲームで成功する確率 X_n を求めよ。

(2) $p_k = \frac{1}{2(k+1)}$ ($k = 1, \dots, n$) のとき、このゲームで成功する確率 Y_n を求めよ。

(3) $n = 3m$ (m は正の整数) で、 $k = 1, \dots, 3m$ に対して

$$p_k = \begin{cases} \frac{1}{3m} & (k = 1, \dots, m) \\ \frac{2}{3m} & (k = m+1, \dots, 2m) \\ \frac{1}{m} & (k = 2m+1, \dots, 3m) \end{cases}$$

とする。このゲームで成功する確率を Z_{3m} とするとき、 $\lim_{m \rightarrow \infty} Z_{3m}$ を求めよ。

(1) $(\frac{1}{3}x + \frac{2}{3})^n$ の x^k の係数は k 回表が出る確率と等しい。

$$\text{成功する確率 } X_n = \frac{1}{2} \left\{ \left(\frac{1}{3} \cdot 1 + \frac{2}{3} \right)^n - \left(\frac{1}{3} \cdot (-1) + \frac{2}{3} \right)^n \right\} = \frac{1}{2} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{3} \right)^n \right\}$$

(2) $(\frac{1}{4}x + \frac{3}{4})(\frac{1}{6}x + \frac{5}{6})(\frac{1}{8}x + \frac{7}{8}) \cdots (\frac{1}{2(n+1)}x + \frac{2n+1}{2(n+1)})$ ($= f(x)$) の x^k の係数は k 回表が出る確率と等しい。

$$\begin{aligned} \text{成功する確率 } Y_n &= \frac{1}{2} \{ f(1) - f(-1) \} = \frac{1}{2} \left\{ \left(1 - \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{3}{4} \cdots - \frac{n}{n+1} \right) \right. \\ &= \frac{1}{2} \left(1 - \frac{1}{n+1} \right) = \frac{n}{2(n+1)} \end{aligned}$$

(3) $(\frac{1}{3m}x + \frac{3m-1}{3m})(\frac{2}{3m}x + \frac{3m-2}{3m}) \cdots (\frac{1}{m}x + \frac{m-1}{m})$ ($= g(x)$) の x^k の係数は

k 回表が出る確率と等しい。

$$Z_{3m} = \frac{1}{2} \{ g(1) - g(-1) \} = \frac{1}{2} \left(1 - \left(1 - \frac{3m-2}{3m} \right) \left(1 - \frac{3m-4}{3m} \right) \cdots \left(1 - \frac{m-2}{m} \right) \right)$$

$$\begin{aligned} \lim_{m \rightarrow \infty} Z_{3m} &= \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left(1 - \left(1 - \frac{1}{3m} \right)^{\frac{3m}{3}} \left(1 - \frac{1}{3m} \right)^{\frac{3m}{3}} \left(1 - \frac{1}{m} \right)^{\frac{m}{2}} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(1 - \frac{1}{e^2} \right) \end{aligned}$$

5 (60点)

整数の組 (a, b) に対して2次式 $f(x) = x^2 + ax + b$ を考える。方程式 $f(x) = 0$ の複素数の範囲のすべての解 α に対して $\alpha^n = 1$ となる正の整数 n が存在するような組 (a, b) をすべて求めよ。

5 条件は「 $f(x) = 0$ のすべての解が $x = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$ とかける」と言い換えられる

(i) $f(x) = 0$ の解が実数 α とし。

前述の条件を満たす $f(x)$ は、

$f(x) = (x-1)^2, (x+1)^2, (x-1)(x+1)$ に限られる。 $\alpha^2 = 1$ とそれぞれ展開し?

$$(a, b) = (-2, 1), (2, 1), (0, -1)$$

(ii) $f(x) = 0$ の解が虚数であるとき

$$\alpha \text{ とし } f(x) = 0 \Leftrightarrow x = \frac{1}{2}(-a \pm \sqrt{4b - a^2}i)$$

$$\text{条件} \Leftrightarrow \begin{cases} -\frac{a}{2} = \cos \frac{2\pi}{n} \\ \pm \frac{\sqrt{4b - a^2}}{2} = \sin \frac{2\pi}{n} \end{cases}$$

$$\cos^2 \frac{2\pi}{n} + \sin^2 \frac{2\pi}{n} = 1 \Leftrightarrow \frac{a^2}{4} + \frac{4b - a^2}{4} = 1$$

$$\Leftrightarrow b = 1$$

$$\text{仮定より } a^2 - 4b < 0 \Leftrightarrow a^2 < 4$$

$$\Leftrightarrow a = 0, \pm 1$$

以上 (i) (ii) より 求める組は

$$(a, b) = (0, \pm 1), (\pm 1, 1), (\pm 2, 1) \dots \text{ (答)}$$